

2020年7月7日 第330号

# 憲法共同センターNEWS

戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター  
〒113-8462 文京区湯島 2-4-4 全労連会館 03-5842-5611 (FAX 5842-5620)  
http://www.kyodo-center.jp mail: move@zenroren.gr.jp

総がかり行動実行委員会 署名宣伝@新宿駅西口

災害対策・コロナ対策最優先

憲法生かし、いのち・暮らしを守る対策に税金を！

総がかり行動実行委員会は7月6日夜、時折、小雨が降る中、新宿駅西口で署名宣伝行動を行い、42人が参加。改憲発議に反対する署名への協力を呼びかけ、27人分が集まりました。雨の中、わざわざ戻って、憲法リーフを受け取ってくれた若い女性は、安倍首相が憲法9条を変えようとしていることを話すと署名に応じてくれました。異常気象が続く中、どこでも豪雨災害など起こりうることであり、憲法を生かした対策を政府に求めていくことが重要となっています。全国各地から、「税金は、コロナ対策や災害対策最優先に」と声をあげていきましょう。



憲法共同センターから、全労連の長尾ゆり副議長と新婦人の油原通江中央常任委員が訴えました。

長尾さんは「熊本で豪雨災害があったが、こういう時こそ国会は開いてほしい。安倍首相は早々に国会を閉じ、モリ、カケ、桜を見る会、河井夫妻の問題などの疑惑にフタをした。暮らしを守るための話し合いをしてほしい」と強調。コロナ対策では、声をあげることで改善させてきたことについて述べ、

「今こそ、憲法を守り、生かすことが求められている。安倍首相は2021年9月までに憲法を変えようと言っている。憲法を生かす時であって変える時ではない。私たち一人ひとりが声をあげ、一人ひとりの署名が集まれば大きな力になる。改憲発議に反対する署名にご協力を」と呼びかけました。

油原さんは、はじめに九州での豪雨災害へのお見舞いを述べ、「持続化給付金の支給業務に関連し電通などにお金がかかるなど理不尽なお金の使い方がされている。異常気象が続いており、昨年の千葉の豪雨災害での修理などまだ終わっていない。安倍政権にいのちは託せない。医療を切り捨て、武器を爆買い。戦争したがる総理はいらない。野党と市民が力をあわせ、総選挙で安倍政権を退陣に追い込もう」と訴えました。

## \* 当面の日程

7月9日(木) 17時30分～18時30分 憲法共同センター「9の日」行動 新宿駅西口  
7月19日(日) 15時～ 総がかり行動実行委員会「19日行動」 国会議員会館前

## ●埼玉

### 街頭宣伝に飛び入り ドーナツ差し入れなど激励相次ぐ

毎週金曜日の昼休みに実施している「戦争させない埼玉の会」の宣伝行動にかつてない反応が寄せられています。

憲法共同センターニュース第326号で女性が飛び入りでマイクを握ったことを紹介しましたが、翌週は、通りがかった女性が「頑張って」と参加者全員にドーナツの差し入れ。その翌週には20歳の男性がマイクで「平和が大事だよ」と訴えてくれました。まだ、アベノマスクや特別給付金の10万円が届いていない人も多く、安倍政権への批判と私たちの行動への激励がたくさん寄せられました。



新しいのをください」という年配の男性もいました。

再開はまだわずかですが、実施した所からは共通して「思っていた以上に良い反応だった」と感想が報告されています。今こそ大胆に市民に改憲反対の声を届けましょう。

### さいたま市で88人参加

#### 「安倍首相のやり方、頭にきている」

3カ月ぶりの再開となったさいたま市の6月9日の9の日宣伝は、9カ所に29団体88人が参加し、22人分の緊急署名を集めました。

参加者の間隔を取りアルコール消毒液を用意し、プラスターを掲げハンドマイクで訴えました。

浦和駅では開始早々若い男女が立ち寄り、「中学の先生から9条は大事と言われていたから」と進んで緊急署名に応じました。

また、中年の女性は「安倍首相のやり方には頭にきているの」と署名。「あなたたちが配布しているチラシは全部取ってある。今日も

### 「私の一言」届いています! その9

憲法共同センター「憲法リーフ」の署名ハガキが返信されて来ています。そこにある「私の一言」欄に寄せられた言葉を紹介します。

自衛隊はまぎれもなく軍隊です。軍隊は人を殺すことを本業とするものです。憲法9条とは絶対に相いれません。アベNO!です(千葉県木更津市から)。

コロナウイルス感染の広がりを防ぐための緊急事態宣言が、憲法に「緊急事態条項」を加えるという動きに直結しないことを願っています。この二つは別物であり、騙されないようにしたいです。改憲発議は絶対に許してはなりません(福岡県北九州市から)。

戦時中、祖母のところに父の戦死の公報がきました。石だけが入った骨箱を前に葬儀をしている時に、父は戻りました。父の弟も戦死の公報で、骨の入った箱が戻りました。でも、本人は戻りました。その名前不明の骨を父の家族は当時できるだけの葬儀をしたそうです。1人の親として子として、二度と戦争をすることに反対します。議員さんは自分の家族を戦地に送りだせますか?二度とあってはならない戦争に(北海道夕張郡から)。